

負けに不思議の負けなし

野村克也著

気分転換に好きな野球に関する本を読んでもみました。筆者は、野球は頭で勝負するとの持論を持つ野村克也氏です。野村氏は、小学校の恩師が当時の南海監督の鶴岡一人氏と懇意だった伝で峰山高校から南海に入団したのですが、実力は買われず、かべにでも取っておけの待遇でした。かべとはブルペンキャッチャーのことで戦力外です。しかし、好きな野球に努力を重ね、指が骨折しても練習を休まず、これを知った正捕手が兜を脱いだ工ピソードがあります。体力的にも体格でも他選手に劣る野村氏は、大リーガー テッドウイリアムズの著書「バッティングの科学」に、「ピッチャーの癖を見抜き配球を予測すること一流選手となりました。一時、解説でノムラスコープが野球の見方を変えたと記憶の方もありません。この本では、現役、監督時代の体験から、28話が記されています。現役時代では、韋駄天福本豊氏の足封じに、クイックモーションの導入やミットにボールを捕球せず、ミットに当てたそのクッションボールを素早く送球する100分の1の技術、そして打者の性格を逆手に取り動揺を誘うささやき戦術など、目を凝らさないと分からない面白さが観戦の幅を広げます。監督時代には、選手の野球で生きる技術を習得するまでは、私生活まで入り込んで指導したそうです。江夏のリリーフ転校時の革命をおこせは有名です。人心掌握の手引きともなる一冊です。

F M .

朝日文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞